

第 25 期第 6 回 IGU 分科会 議事要旨

日時： 2022 年 10 月 24 日（月） 15 時 00 分～17 時 00 分

場所： 遠隔会議

出席者（敬称略）： 矢野桂司，春山成子，近藤康久，池口明子，石川義孝，岡橋秀典，小口高，奥村晃史，久保純子，近藤昭彦，篠田雅人，鈴木康弘，竹内裕一，中澤高志，氷見山幸夫，森田喬，山崎孝史，山下潤，横山智，渡辺浩平

欠席者（敬称略）： 阿部彩子，石川徹，伊藤香織，井田仁康，中谷友樹，山本佳世子，吉田道代

※ 委員 27 名中 20 名の出席により委員会は成立した。

配付資料：

資料 1：第 4 回議事要旨

資料 2：第 5 回議事要旨

資料 3：IGU 関連報告

資料 4：IAG_HIGHLIGHTS

資料 5：IAGWebinarIGD2022

資料 6-1～6-4：地名小委員会関係資料

議事等：

1. 議事録の確認

- ・前二回議事録（資料 1，資料 2）の内容を確認した。

2. IGU 関連報告

- ・前回会議以降の IGU の動向について，資料 3 に基づき下記のとおり報告があった。

・7 月 18-22 日にフランス・パリで IGU 大会が開催され，79 か国から 2300 余名の参加があり，うち日本からは 49 名が参加した。

・パリ大会では総会が開かれた。主な決定事項は①ロシア国内委員会の除名，②事務局長（Secretary General）と財務担当（Treasurer）の分離である。また第 35 回 IGC が 2024 年 8 月 25-30 日に開催されることが報告された。

・IGU Lauréats d'honneur を村山祐司氏（筑波大学名誉教授），IGU Distinguished Practice Award を小野有五氏（北海道大学名誉教授），IGU Early Career Award を久保倫子氏（筑波大学助教）がそれぞれ受賞した。

・2023 年 4 月 4-6 日大阪公立大学で，IGU 地理学史コミッションと IGU 日本委員会の共催によるテーマ会議「Islands in Relations: Conflicts, Sustainability and Peace」が開催される予定で，準備が進められている。

- ・ISC との連携事業として Distinguished Lecture Series on Basic Science for Sustainability が始まり、日本からは安成哲三氏を講師として推薦した。

- ・ISC でフェロー制度が始まり、日本からは氷見山幸夫委員を推薦する旨、Meadows IGU 会長に連絡した。

- ・10 月 16-18 日にスペイン・ガリシア州サンティアゴデコンポステラで開催された IGU 役員会について報告があった。

3. 2023 年 Thematic Conference（大阪）について

- ・テーマ会議の準備状況について報告があった。学会報告は 116 件応募があり、現在査読中である。年内にプログラムを編成する予定である。若手旅費助成には 30 名応募があり、現在審査中である。

4. 地名小委員会からの意思の表出について

- ・UNGEGN ワーキンググループの活動について報告があった。9 月に地名と文化遺産をテーマとして討論がおこなわれ、エキゾニムの文化的価値が主な論点となった。2023 年 5 月に UNGEGN 地名専門家グループの総会が開催される予定。

- ・地名小委員会からの意思の表出について、資料 6-1～6-4 に基づき報告があった。地域情報分科会と本分科会と合同で意思を表出すること、および合同シンポジウムの開催については、すでにメール審議で了承されている。提言内容（資料 6-3）は両委員会および地名小委員会名で作成中で 1 月末に提出する必要がある。12 月 18 日に公開シンポジウム（資料 6-4）を開催予定である。この件は 1 月に委員会を開催して検討することとした。

5. 各小委員会からの報告

- ・資料 4 に基づき 9 月 12-16 日にポルトガル・コインブラで開催された IAG 大会について報告があった。総会では今後 4 年間の役員が選出され、小口委員が副会長となり、主な業務として IGU を含む諸機関との連携、Webinar、東アジアとの連絡を担当する。

- ・資料 5 に基づき、10 月 11 日に開催されたジオダイバーシティデーの Webinar について報告があった。Webinar には約 100 名の参加があった。

6. その他

- ・人口地理学国際会議について報告があった。8 月 25-27 日に国立社会保障・人口問題研究所を拠点としてオンラインで会議が開催され、68 の研究報告、121 名の参加者があった。

- ・新たに就任した IGU 役員について紹介があった。IGU 分科会のなかで、委員の IGU での活動状況について話題提供する機会を作っていくことが提案された。

以上